

大学COC事業における政策提言発表会

文部科学省は、大学と地域・自治体との連携を促進し、大学が地域コミュニティの中核的な拠点となることを目的に「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」を実施しています。

尼崎市内では、兵庫県立大学、園田学園女子大学の2大学が市内をフィールドとして、COC事業を実施しています。

今回は、その事業において学生たちが尼崎市の課題解決に向けて調査・研究・立案した政策プランの発表会を開催します。

●と き 2015年(平成27年)2月13日(金)
14:00~17:00 (開場13:30)

●ところ 尼崎市立教育総合センター
3階 第1研修室
兵庫県尼崎市三反田町1-1-1

園田学園女子大学

発表①「学ぶまち尼崎」

「大学の社会貢献」の授業で、尼崎市の現状を学び、大学のある塚口周辺のフィールドワークで現状を知りました。その学びを通して、私たちがテーマに取り上げたのは「学校教育」と「空きスペースの活用方法」です。子どもたちが前向きに勉強に取り組めることのできる環境を、地域が、教師が、学生が、ボランティアが、一緒になってつくってみたい。そして、それを塚口さんさんタウンで実現する企画を提案します。

発表②「人のにぎわう公民館」

尼崎市は社会教育を充実させる取り組みのなかで、「尼崎市公民館グループ」を推進していますが、公民館グループへの部門別登録者数では、年齢層や性別に偏りがあります。そこで私たちは、より多くの市民に公民館を利用するきっかけをつくるのが大切だと考えました。特に、若者の利用を促進するために、「市民が求めるイベントの企画」に注目しました。今回私たちが提案する「望み×望みプロジェクト」によって、尼崎市の全市民、特に若者に、公民館へ行くきっかけを与えたいと思います。

発表③「0歳~100歳が共に生きる『のびのびタウン』」

尼崎市の課題は人口減少率、高齢化率が高く、近年の事件によりイメージが悪化していることです。私たちは、杭瀬小学校区をフィールドに児童教育学科・人間看護学科のゼミが共同で研究し、地域資源・防災・健康づくりをテーマに児童とともに、まちの探検隊を行いました。その結果をふまえ、街を好きな人を増やし、皆がいきいき暮らすことができる「のびのびタウン」~子どもたちがこれからも住み続けたいまち~をめざす企画「親子で発見 めぐってポン!あまがさきスタンプラリー」を提案します。

●プログラム

- 13:30 開場
- 14:00 開会挨拶(稲村和美尼崎市長)
オープニングトーク
(船木成記尼崎市顧問・能島裕介尼崎市参与)
- 14:10 発表①「学ぶまち尼崎」(園田学園女子大学)
- 14:40 発表②「人のにぎわう公民館」(園田学園女子大学)
- 15:10 発表③「0歳~100歳が共に生きる『のびのびタウン』-地域資源を生かした安心・安全な街づくり」(園田学園女子大学)
- 15:40 休憩
- 15:45 発表④「尼崎の子育て支援の現状と子ども・子育て支援新制度導入下の事業提案」(兵庫県立大学)
- 16:15 発表⑤「尼崎市の地域密着型小売業の実態と方策」(兵庫県立大学)

兵庫県立大学

発表④「子ども・子育て支援新制度導入下の事業提案」

平成27年4月から実施される「子ども・子育て支援新制度」によって利用者の負担は所得に応じることになり、特に幼稚園において大きな影響を受けることになります。公立幼稚園では私立幼稚園や保育所と比べた時の「保育料の安さ」が失われること、私立幼稚園では、これまでウリとしてきた行事の回数減少することなどが懸念されています。そこで、公立幼稚園には預かり保育の導入による保育所との差別化や私立幼稚園にはNPOとの連携などを提案します。

発表⑤「尼崎市の地域密着型小売業の実態と方策」

尼崎市には地域密着型小売店と目される商店街や食品スーパーがあります。ここではその中で代表的と目される3つの地域密着型小売業を取り上げ、その現状について検討します。また、消費者アンケート調査や小売店へのヒアリング調査を踏まえ、今後、高齢者や買物難民を対象に、宅配サービスの実施方法や地区別ニーズ調査員の配置、現在すでに宅配サービスを実施しているところのバイク便の活用、保育所に冷蔵ロッカーの設置などを提案します。

園田学園女子大学
園田学園女子大学短期大学部
SONODA
SONODA WOMEN'S UNIVERSITY



兵庫県立大学
UNIVERSITY OF HYOGO

尼崎市



文部科学省
地(知)の拠点

この政策提言発表会は、文部科学省「地(知)の拠点整備事業」の一環として実施されます。